

令和4年度 前期学校アンケート結果分析

京都市立開晴小中学校

遅くなりましたが、前期学校アンケートの整理が終わりましたので、ご報告いたします。

保護者アンケートにつきましては、昨年度よりオンラインでの回答をお願いしておりますが、回答総数が327件（昨年度311件）と、全児童生徒数の半分にも満たない状況でした。次回以降の学校アンケートには、ぜひとも多数の回答をお願いしたいと存じます。

アンケートの集計結果につきまして、項目ごとに以下にまとめております。「実現度」の低い項目については、今後の課題と受け止め、優先的に取組を進めてまいります。後期アンケートとの比較で改めて分析させていただきます。

また、自由記述欄につきましても、さまざまなご意見を頂戴いたしました。すべて保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ただ、頂戴したご意見は多様で、そのまますべてを実現することは出来かねますこと、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。アンケートには書き切れなかったご意見等がございましたら、電話や学校メールにてお聞かせくださいませ。

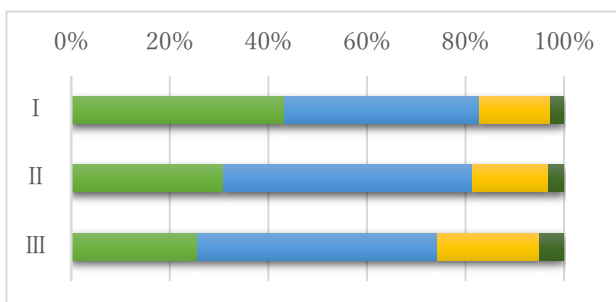
自由記述欄には、教職員へのねぎらいや感謝の言葉もたくさんいただいておりますが、紙面の都合上、割愛させていただきました。お詫びを申し上げますとともに、深く感謝いたします。なお、この結果につきましては学校運営協議会理事の皆様にも供覧し、ご意見をいただいたうえで、本年度前期の調査結果として報告いたします。

グラフの見方

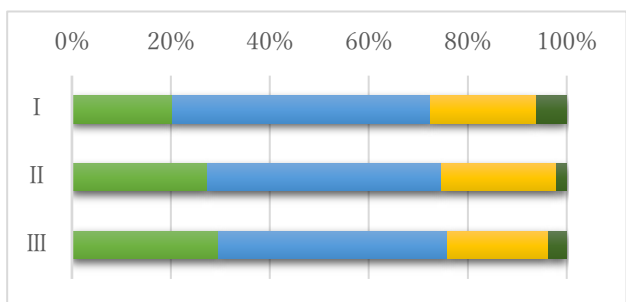
- ・縦軸のⅠ・Ⅱ・ⅢはⅠstステージ（1～4年）、Ⅱndステージ（5～7年）、Ⅲrdステージ（8・9年）
- ・帯の色は左から「できている（薄緑）」、「どちらかといえば、できている（青）」、「どちらかといえば、できていない（黄）」、「できていない（濃緑）」を表している。読書量の項目については、「月に4冊以上（薄緑）」「月に2～3冊程度（青）」「月に1冊程度（黄）」「まったく読まない（濃緑）」を表している。

令和4年度（前期）児童・生徒アンケート、保護者アンケートの結果分析

【児童・生徒】自分のめあてや目標をもち学習したり生活したりしている。

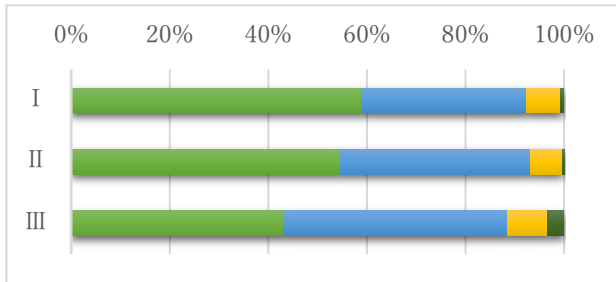


【保護者】子どもはめあてや目標をもち学習したり生活したりしている。

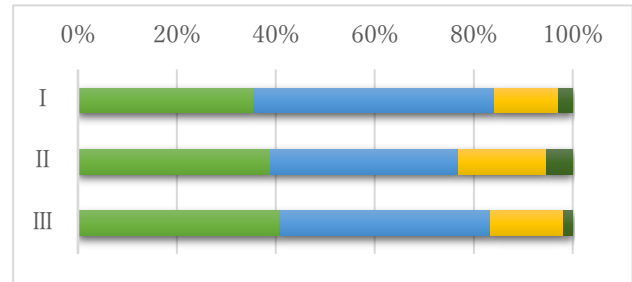


【児童・生徒】の80%前後が肯定的な回答をしており、実現度が高いことがうかがえる。ただ、【児童・生徒】では、学年が上がるにつれて実現度は下がる傾向があり、【保護者】では逆に上がる傾向がある。これは、【児童・生徒】は1時間の授業のめあてや1日の生活目標など、比較的短期間の「めあてや目標」と捉えているのに対し、【保護者】は子どもの成長段階における長期的なめあてや進路目標など、長いスパンでの「めあてや目標」と捉えているためではないかと考えられる。どちらの「めあてや目標」も大切であり、子どもたちには長期的な目標を設定できるようにするとともに、その目標に向かって、毎時間の授業のめあてや日々の生活目標を達成できるよう指導を続けていきたい。

【児童・生徒】授業中、先生や友達の話をよく聞いている。



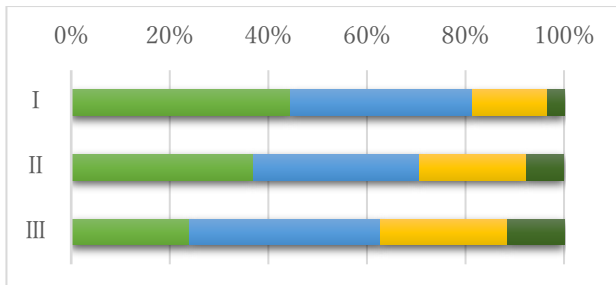
【保護者】子どもは先生や友達の話をよく聞き、落ち着いて学習している。



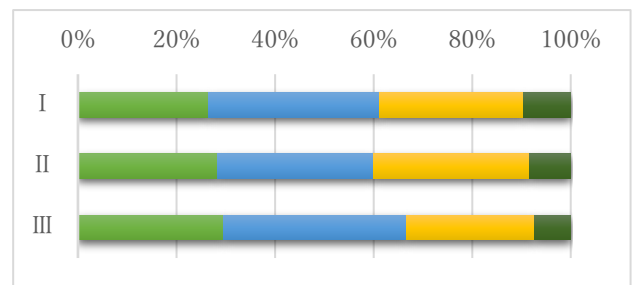
【児童・生徒】の 90%前後、【保護者】の 80%前後が「できている・どちらかといえば、できている」と回答しており、実現度が高い。

一方で、「授業参観中にも関わらず I 人で話し続ける子がいたり、落ち着いて授業を受けられる環境ではないと感じました。」(II 保護者)のようなお声もいただいております。引き続き、先生や友達の話を聞くことの大切さや聞き方についての指導を徹底していきたい。

【児童・生徒】おたより帳やスケジュール帳を使って自分で計画を立て、進んで学習している。

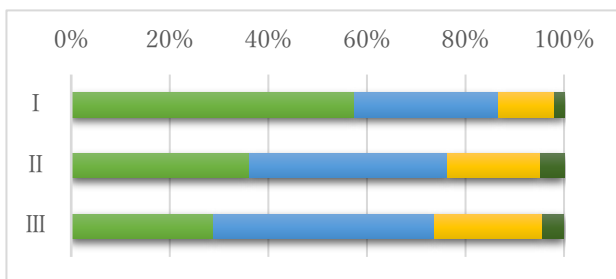


【保護者】子どもはおたより帳やスケジュール帳を使って、計画的・主体的に学習している。

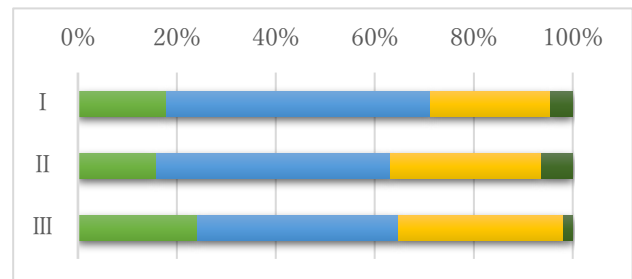


本校では、数年前より「自らの学習や生活をマネジメントする力の育成」を目指して、「おたより帳」や「スケジュール帳(じゅるーちゅ)」を活用する取組を進めている。学年が上がるにつれて、自己指導力が高まることを目指しているが、【児童・生徒】の結果は、逆になってしまっている。実際に、学年が上がるほど自己指導力が高まっていないのか、客観的に自身のことを見つめられる力が高まった結果、このような回答結果になったのかは見極めていく必要はあるが、引き続き取組を進めていきたい。今後ともご家庭での協力をお願いしたい。

【児童・生徒】苦手なことや難しいことにも挑戦し、あきらめずに取り組んでいる。

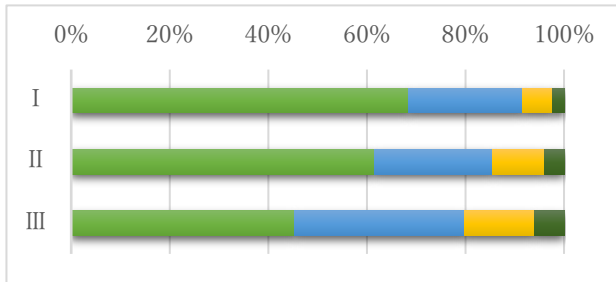


【保護者】子どもは苦手なことや難しいことにも挑戦し、粘り強く取り組もうとしている。

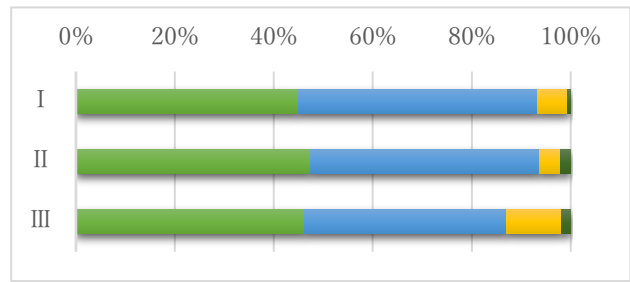


【児童・生徒】の実現度は 80%前後と低くはないが、【保護者】の回答との差異が大きな項目となった。つまり、子どもは「自分なりに頑張っている」という思いをもっているが、保護者から見ると「もっと頑張れるのでは?」という見方になっている場合があるのではないかと考えられる。学校においても一人一人の頑張りをしっかり見取り、適切に評価するとともに、「やればできる」といった自信や自己有能感が高められるよう指導していきたい。

【児童・生徒】自分には得意なことやよいところがある。

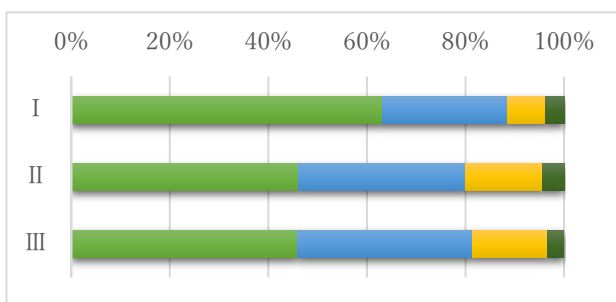


【保護者】子どもは自分の得意なことやよいところを知っている。

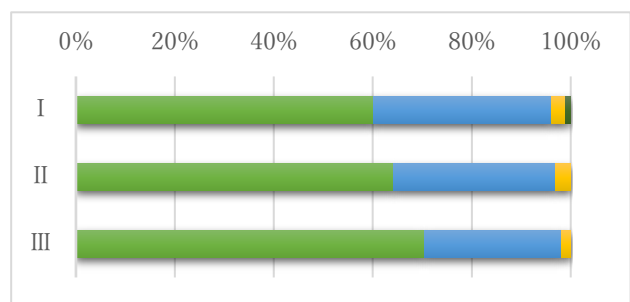


自己肯定感についての質問項目である。【児童・生徒】【保護者】ともに実現度は 80～90%と、かなり高くなっている。学校においても「一人一人のよさを見つけ、認めたり褒めたりすること」を積極的に行ってきた成果ではないかと考える。

【児童・生徒】人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない。

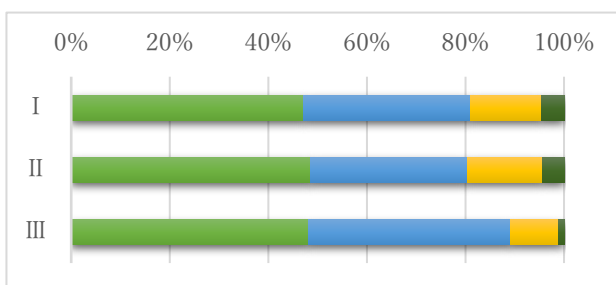


【保護者】子どもは友達を思いやり仲良くしている。

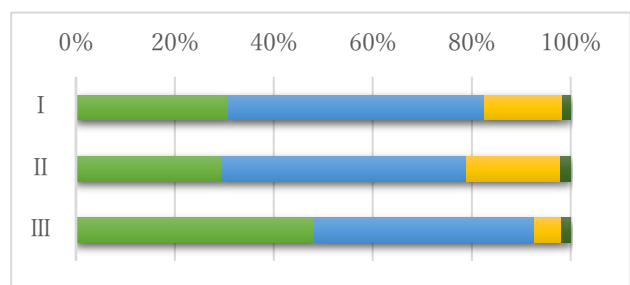


【児童・生徒】の 80～90%が、【保護者】の 95%以上が「できている」「どちらかといえば、できている」と回答している。多くの子どもたちが、他人を傷つける態度や言葉に気を付けていることは素晴らしいことであるが、一方で、人が嫌がることと分かっていながら、そのような言動を行ってしまう子どもがいることは大きな課題である。本校では、校訓の一つに「克己」を掲げており、まさに「やってはいけないことをやってしまう」という「弱い自分」に打ち克つ力を育てていきたい。

【児童・生徒】自分から進んであいさつをしている。

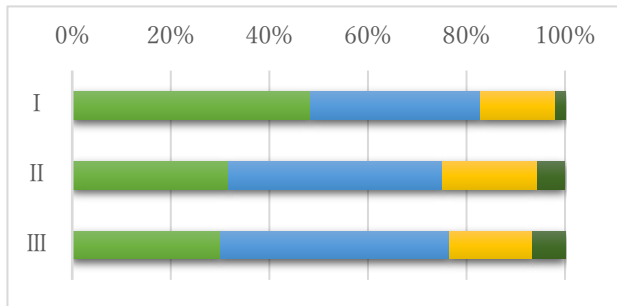


【保護者】子どもは、しっかりとしたあいさつをしている。

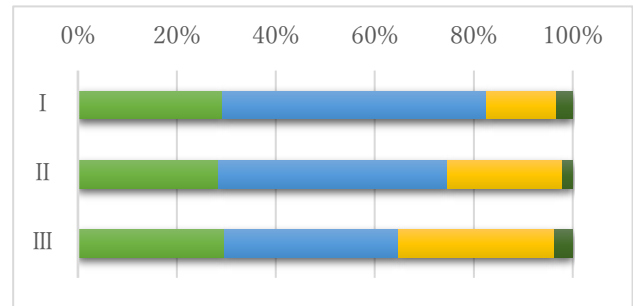


本校では「礼節」を校訓の一つに掲げ、まずは「自分から進んで挨拶できる」ようになることを目指している。【児童・生徒】【保護者】ともに、I・IIよりもⅢの実現度が若干高めになっており、実感としても、学年が上がるにつれて進んで挨拶のできる子が増えているように感じる。Ⅲの生徒が I・II のよいお手本となってくれていることに頼もしさを感じる。

【児童・生徒】そうじやお手伝いなど、進んで人のために役立つことをしている。

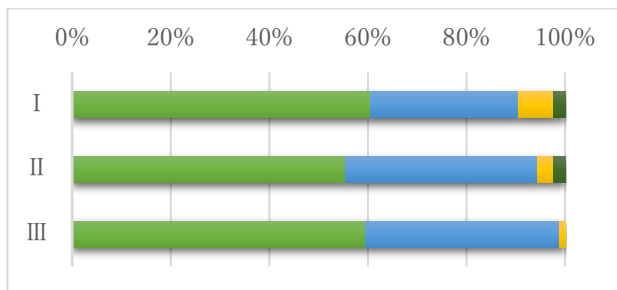


【保護者】子どもは、進んで人の役に立つこと(お手伝いなど)をしている。

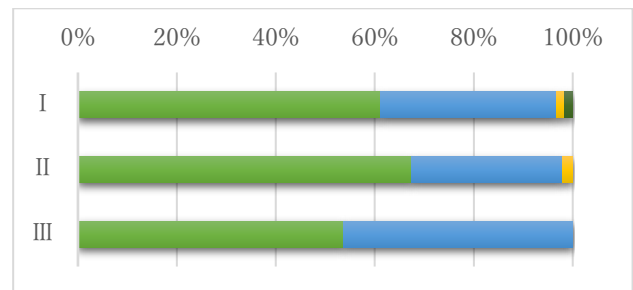


【保護者】の回答からは、学年が上がるにつれて実現度が低下傾向にあることがわかる。後期課程になると、部活や塾などで忙しくなり、おうちでのお手伝いなどがおろそかになっているのではないかと考えられる。

【児童・生徒】学校や社会のルール・マナーを守っている。

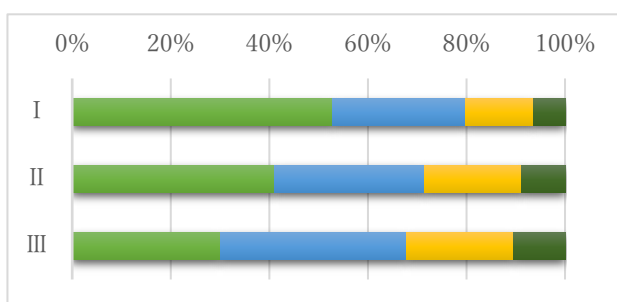


【保護者】子どもは、学校や社会のルール・マナーを守っている。

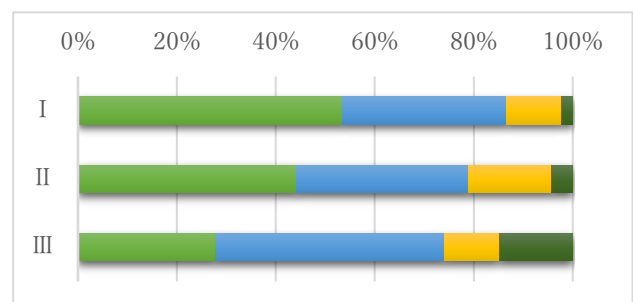


【児童・生徒】の90%以上が「ルールやマナーを守っている」と回答している。ただ、実際には廊下を走ったり、登下校時に交通ルールやバスでのマナーが守れていなかったりする姿を見かけることがある。「ルールだから守りなさい」といった押しつけの指導ではなく、「どうしてルールやマナーがあるのか」「どうして守らなければならないのか」といったことを考えさせ、自分や周りの人たちが、学校や社会で安全に、安心して過ごすためにルールやマナーが作られていることを理解できるようにしていきたい。

【児童・生徒】早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しく生活している。

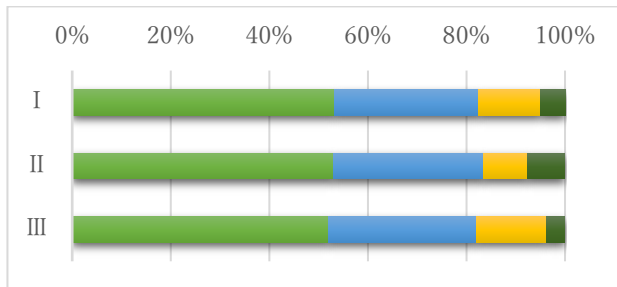


【保護者】子どもには、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身に付いている。

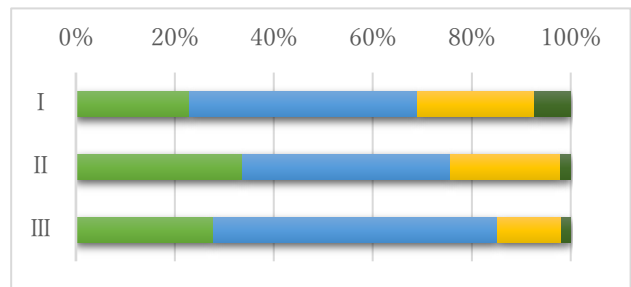


【児童・生徒】【保護者】ともに、学年が上がるにつれて実現度が下がっている。特に後期課程の生徒の中には夜遅くまで起きていることが常態化し、朝起きられず、朝ごはんを食べる時間がなくなるといった負のサイクルになってしまっている生徒もいる。まずは、寝る時間が遅くなりすぎないようにすることから始め、早起きし、朝ごはんを食べる時間をしっかりと確保してもらいたい。

【児童・生徒】できるだけ好き嫌いせず、感謝して給食を食べている。

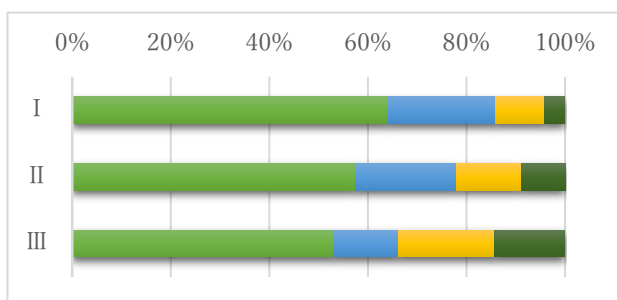


【保護者】子どもは、好き嫌いせずに感謝して食事している。

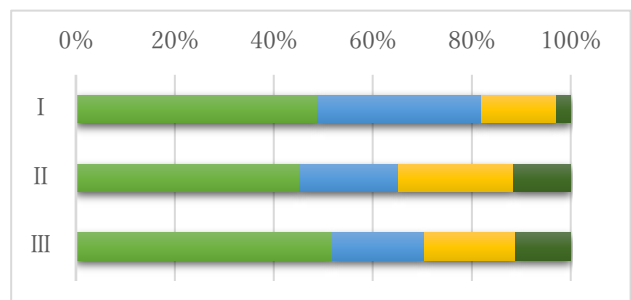


【児童・生徒】の実現度は、Ⅰ～Ⅲでほぼ変わらない回答であった。【保護者】の回答は学年が上がるにつれて改善傾向にあり、家庭での好き嫌いは減っている様子がうかがえる。

【児童・生徒】外遊び・スポーツなどで、体をよく動かしている。

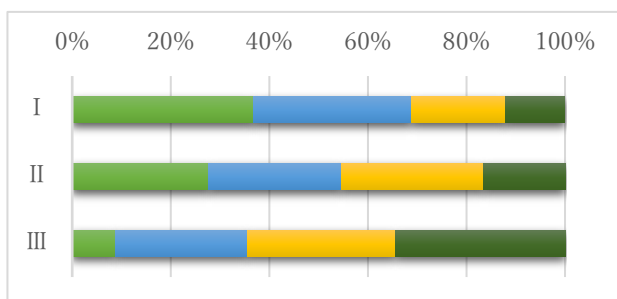


【保護者】子どもは外遊び・スポーツなどで、体を動かしている。

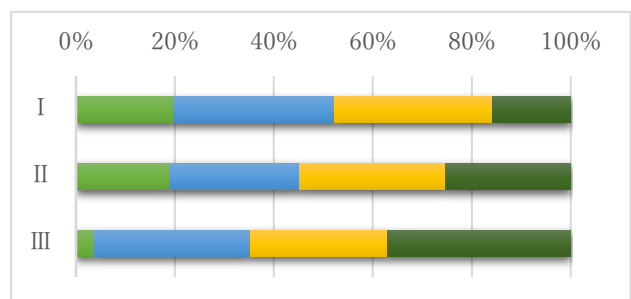


Ⅰの児童は中間休みや昼休みになると運動場に出て体を動かしていることが多いが、高学年や後期課程になると、部活で毎日のように体を動かす児童・生徒がいる一方で、運動部に所属していない児童・生徒は体を動かす機会がほとんどなく、二極化しているのではないかと考えられる。コロナ禍で、全国的に子どもたちの体力の低下が懸念されており、本校においても「ロング昼休み」など体力向上に向けた取組を進めているところである。

【児童・生徒】朝読書以外で 1 カ月にどれくらい本を読んでいますか。

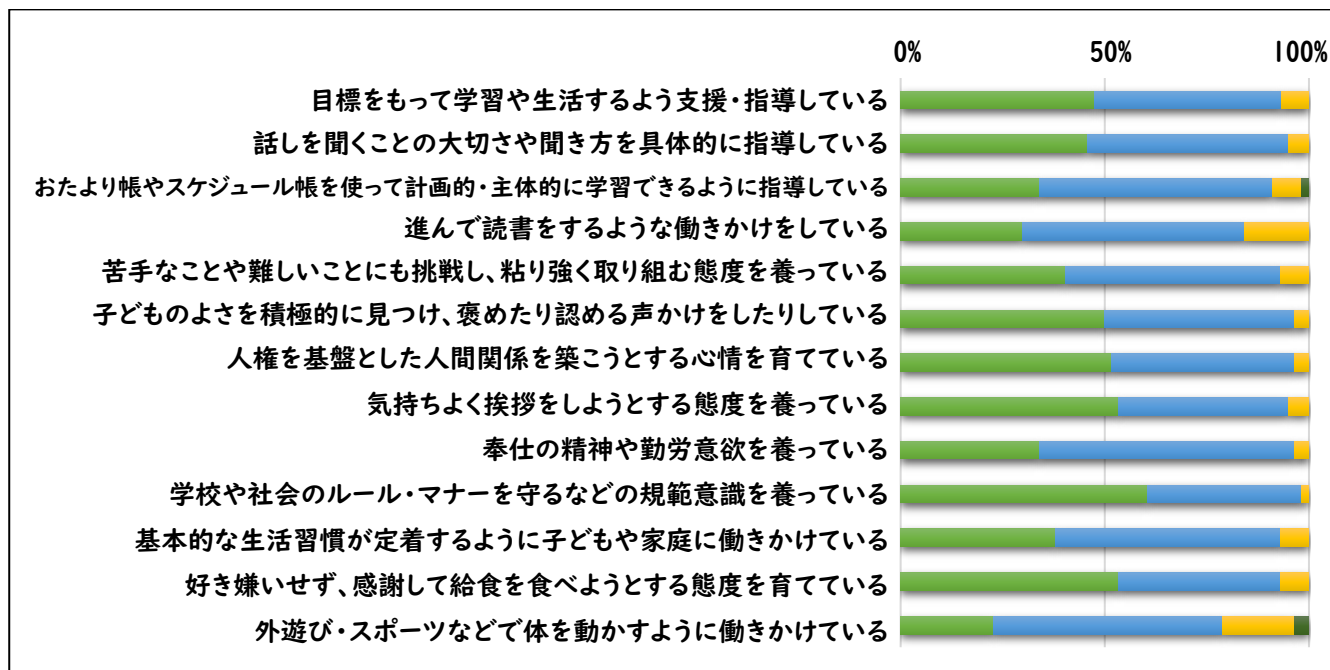


【保護者】子どもは家庭でどれくらい本を読んでいますか。



学年が上がるにつれて、読書量が顕著に低下していることがわかる。特に8・9年の3人に1人が「全く読書をしていない」と回答している。本校では、毎朝10分間の読書タイムを全校一斉に設けているが、その取組が児童生徒の普段の読書量に反映していないのが残念である。学年が上になるほど読書量が減少する理由としては「部活や塾で忙しく、読書する時間がない」「スマホやテレビなどを見ることに時間をとられ、読書の習慣が身に付いていない」などが考えられる。少しでも読書を習慣化し、知識や関心の幅を広げてほしい。

令和4年度(前期) 教職員アンケートの結果分析



ほとんどの項目について90%以上の教職員が「している・どちらかといえはしている」と回答しており、開晴館の教職員が同じ意識で子どもたちへの指導を実践していることがうかがえる。中には、「どちらかといえはしていない・していない」の回答が10%以上になる項目もあるが、このアンケートは全教職員を対象に実施しており、例えば、学級担任をもたない教職員、子どもの指導に直接関わることの少ない教職員などの場合、「進んで読書をする」や「外遊び・スポーツなどで体を動かす」などについては、積極的に働きかけをする場面が少なかったためと考えられる。今後、児童・生徒アンケートにおいて実現度の低かった項目、例えば「計画的・主体的に学習する」や「進んで読書する」などの指導については、再度、全教職員で共通理解を図り、様々な機会を捉えて重点的に指導するようにしていきたい。

保護者自由記述欄にお寄せいただきましたご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

授業参観を実施して下さって、初めて我が子の学校での様子を観ることができ、大変嬉しかったです。(I)

コロナを警戒し過ぎず、学校生活や行事をできるだけ通常通り行ってほしい。(II)

ミライシードの勉強、楽しんで取り組んでいます。考える力をつける取組が増えて、主体的に行動できるようになってほしいと思います。(I)

コロナ禍、新しい形での教育活動していただき有り難く思います。人の体温を感じるコミュニケーションが不足しており、苦手や困難を乗り越える機会が減ってきているのではないかと、子供達が成人したときにどのような影響が出るのか不安に思います。(II)

制限の多かった学校生活ですが、日常が戻りつつあることに感謝いたします。部活動への取組について、先生方の拘束時間や働き方改革等の観点から様々な考えがあるかと思いますが、もう少し子どもたちの力を伸ばせるような部活動のあり方を検討していただければと思います。小中学校の時期に触れたスポーツは伸びしろも大きく心身共に成長する大切な原動力にもなると思います。(III)

学校運営協議会理事の皆様にお寄せいただきましたご意見より（表現の一部を修正・省略しています。）

コロナ禍、様々な制限がある中で教職員の皆様にはご苦労いただき、ねぎらいの言葉しかない。

コロナ対策に関しては厳しい意見もあるが、コロナ対策に対する考えは個々により差が大きく、不満の声が出るのは仕方ないという印象をもつ。

児童・生徒は「できている」と肯定的に回答している項目に対し、保護者が否定的な回答をしている場合があり、認識の差が気になった。保護者と子どものコミュニケーションの問題かもしれないが、学校での様子や取組が保護者に正しく伝わっていないイメージもあり、非常にもったいないと感じる。

今の社会において子どもたちも保護者も時間に余裕のない忙しい毎日を感じている。

多忙の中、学習及び学習環境向上のため、教職員の様々な努力に感謝している。

そのほか、児童生徒への接し方、コロナ禍における教育活動、学校行事や部活動等について、多数のご意見や感謝のお言葉を頂戴いたしました。いただきましたお声を糧に、東山開晴館が子どもたちにとってよりよい学校となるよう、教職員一丸となって努力してまいりたいと思います。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。